

# 令和6年度 練馬区立大泉西小学校 学校経営計画

校長 岩切 洋一

## 1 大泉西小学校・教育目標

大泉西小学校が果たすべきミッションを次のように規定する。

**— 子どもの夢を大切にし 夢の実現を後押しする —**

上記ミッションを実現するため以下の教育目標を掲げ、全教育課程を通じて、その着実な実現を図る。

- ・「なりたい自分」を語れる子ども
- ・「なれる自分」を広げる子ども
- ・自らに価値を感じる子ども
- ・自分以外の人に思いを寄せる子ども

## 2. 学校マネジメントに対する本職の理念

校長として、次の理念をマネジメントを展開するうえでの基軸とする。

「洗練された高度な教育力によって関係するすべての人を『幸せ』にする学校」を実現する。

ここで言う「幸せ」というのは、ふわっとした概念的・理念的なものではなく、対象によって各々次のように定義されたものを指す。

第一に児童にとっては、自らが日々成長・向上していることについての腹の底からの実感である。

第二に保護者にとっては、そんな我が子の日々見違えていくさまを目にする驚き・満足感である（『手習いにあげた我が子を見違える』）。

第三に地域にとっては、児童が健全に成長することで、地域環境が健全化していく事実を目の当たりにする喜びである。

第四に教職員にとっては、児童が自らの成長を喜ぶ姿を見たり、感謝する声を聴いたりすることによる充足感・満足感である（金銭的な報酬は決してインセンティブにはならない）。

これらは学校として高度な教育力を持ち、それによって子どもに対して「教えてわからせる」「わからせて褒める」という教育活動の基本原理を確実に実現することによって初めて可能となるものである。令和5年度以降、教職員一人一人がこの根底となる指導力を身に付けられることを優先事項としている。これを継続すると同時に、それらを十分に発揮できるよう、安定した教育環境・職場環境の実現に全力を尽くす。

中長期的に見れば教育目標の着実な実現を、短期的に見れば児童の満足した笑顔、感謝の言葉が溢れる学校を目指し、全体を滞りなくマネジメントしていく決意である。

## 3. 中期経営目標と方策（第2期：2024年度から2027年度までの3年間で期限とする）

「練馬区教育・子育て大綱」に基づき 2021～2023年度までの3年間で期限として以下に述べる5分野11項目の教育活動を展開する（2024年度は第2期初年度に該当する）

### **(1) 子どもに夢と気概を育む教育実践を展開する。**

自分の未来を描き、「そのためには今、何をするのか」を語れる子どもに育てたい。すべての学習はここに帰結するとしても過言ではない。そのためには学習への明確な目的意識と確固たる目標を設定できる能力を子どもに習得させることが必要である。

ここでは次の2点を目標として掲げる。

### ① 子どもの世界を広げるための読書活動を充実させる。

一冊の本には著者の思いや生きざまが詰まっている。また、登場人物の姿にはさまざまな個性や役割が投影されている。そのため、子どもは読書を通じて多くの生き方を学び、自らの糧とすることができるのである。

練馬区内でも随一の面積を誇る本校図書室の有効活用を図りながら、歴史や伝記の書籍に触れる機会をこれまで以上に重視し、子どもがあこがれの人物に出会える機会を意図的に設定していく。また、「大西小の60冊」を今後も継続していく。

### ② 学習を好きにさせる教科指導を展開する。

熱中しながら学習に取り組むことで、自らについての新たな発見や可能性への気づきが育まれる。それが子ども一人一人の選択できる未来を広げる。そのためには学習意欲を大切にされた教科指導が何より重要なのである。

教員は「教えて褒める」という教育活動にとって当然の指導原則を再確認し、それに基づく授業を展開することを保障していく。

## (2) 自尊感情を高める教育実践を展開する。

セルフ・エスティームの重要性は改めて述べる必要も無い。このためには各種の体験を潜らせ、試行錯誤の過程から判断力や生活技能を身に付けさせること、物事に継続して取り組む中で自信をもたせること、といったファクターが必要となる。

ここでは次の2点を目標として掲げる。

### ③ 外部団体による様々な企画・行事への児童の参加や作品応募等を積極的に促すことで一人一人の長所を認め、伸ばす。

教育活動を通して児童一人一人が各々もつ特性・長所を伸ばしていくのは学校にとって当然の責務であるが、校外の活動に参加することでそれは更に大きく花開く可能性がある場合もある。

そのため、各種コンクールや東京都や練馬区等が主催する様々な企画・催し物への参加を最大限考慮すると共に、民間団体の主催する企画・催し物にも児童が積極的に応募できるように学校として支援していく。これにより多くの児童が自らに価値を感じられるようにする。

### ④ 各学年の発達段階に応じて、暗唱・素読・百人一首・伝承遊び等の活動を取り入れる。

暗唱・素読は脳生理学の知見でも、前頭前野を活性化し、集中力を高めるといった効果が明らかにされている。6年間を見通して適切な題材を選定し、子どもたちが卒業までに幅広いジャンルの作品に触れられるようにする。また、百人一首や伝承遊びについては特別活動などの時間に計画的に取り入れ、多くの子どもが集団遊びの世界を楽しむようにさせる。

## (3) 集中力と持続力を醸成する教育実践を展開する。

将来の自己実現の礎となる「基礎学力」は本来身に付きにくいものであり、何度も繰り返し、徹底して学ぶ必要がある。ここでは当然、子どもの側に集中力と持続力が必要となる。そのためには何事にも耐えられるだけの体力・気力を充実させなければならない。同時に、安定した心情での取り組みも集中力の醸成には重要であり、学校は安心・安全な学習環境の整備も着実に実現しなくてはならない。

ここでは次の3点を目標として掲げる。

### ⑤ 児童一人一人の体力の向上を図る。

児童が生涯にわたって困難に耐えぬき、各々が自己実現を図るためには体力の向上が必要である。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による運動機会の喪失等により、一人一人の体力・運動能力の低下が重篤な課題となっている。練馬区教育委員会はこの改善を大きな課題とし、各校に解決を求めている。そのため、各担任が児童の体力・運動能力についての実態を正確に把握し、最も課題となる項目の継続的な改善を図る「1学級1取組」を強化する。

また、逆上がりや跳び箱での開脚跳び、水泳 25m、縄跳び二重跳びなど、生涯にわたって必要な基本的な運動技能も確実に身に付けさせる中で一人一人に達成感を味わわせる。これらは東京都の「1校1取組運動」に位置づける。

**⑥ 安心・安全かつ快適な学校環境を保障する。**

心身ともに安心・安全が担保されていない環境では人間は集中して活動に取り組むこともできない。「いじめ発見のチェックシート」（練馬区）、「大泉西小いじめ発見・対応マニュアル」による「いじめゼロ」に向けた取り組みの強化、首都圏直下型地震等を想定した実践的な避難訓練・安全指導の推進、教師からの体罰や威圧的な指導の排除等を通じて、児童が安定した心情で学校生活を送ることができるようにする。また、「割れ窓理論」で示されているように、乱雑・不衛生な環境でも人間の心情は安定化しない。どんな些細な瑕疵をも見逃さず、子どもが安心して学習できる学校とする。

**⑦ 一人の児童を複数の教員目で観察し、きめ細かな児童理解を図る。**

低・中・高ブロックごとに専科指導担当教員を副担任として配置し、一人一人の児童を複数の視線できめ細かく観察し、適切な指導を可能としていく。

**④ 学力の着実な向上を保障する教育実践を展開する。**

「なれる自分」を広げるためには一定の知識・技能の蓄積が必要となる。これが欠けると、学年が進むにつれて子どもの可能性は狭められ、選択できる余地さえない状況に陥っていく。子どもの可能性を伸ばすには、すぐれた指導方法の導入と一人一人の教師の児童理解のスキル向上が不可欠である。

ここでは次の2点を目標として掲げる。

**⑧ 大泉西中学校区の「目指す15歳の姿」の実現に向け、全ての児童に学力向上を保証する。**

現行の学習指導要領では思考力・判断力・表現力等を児童に育成することが重視されている。しかし、これは基礎的・基本的な知識・技能を前提としたものである。それが不十分な児童には何よりその着実な習得を最優先に考慮する必要がある。本校の場合、学力低迷が大きな課題である。小学校で習得すべき学習事項が着実に定着していないと義務教育終了段階で自らの進路を選択する際に大きな支障を生じさせることにもつながる。

その際、GIGA スクール構想に基づき、全児童に賞与されたタブレット端末を含め、ICT 機器も積極的に活用する。

**⑨ ユニバーサルデザインに基づいた授業を展開する。**

知的障害やLD、ADHA、ASD等の情緒障害のある児童一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童のもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服することも学校教育の大きな役目の一つである。そのためには障害についての知見を得ることも重要であると同時に、彼らを含めた全在籍児童が心地良く授業に臨むことを実現できるだけのユニバーサルデザインに基づく授業の構築が何より必要である。そこで「授業の名人」と称される講師を招聘し、教職員全員が適切な指導スキルを着実に身につけられるようにする。

また、施設設備の他、学習目標、学習方法、教材教具、評価などさまざまな面で特別支援教育の視点を取り入れ、障害の有無に関わらず誰にとってもより優しく、より居心地の良い学習環境の工夫を図る。

**⑤ 他者意識を育む教育実践を展開する。**

自他の協働の中で社会が成り立っているという事実を実感させることは、公教育が担うべき基本指針の一つである。小学校では、何よりその基本を習得させる必要がある。

ここでは次の2点を目標として掲げる。

**⑩ 集団の中で互いに心地よく過ごすことができるよう、あいさつなどのマナーや各種ルールの遵守を図り、相手を尊重する意識・態度の育成を図る。**

社会生活をおくるうえで規範意識の育成が必要であるのは言うまでも無い。同時にマナーを身に付けることも重要となる。マナーは社会の中で人間が気持ち良く生活していくための

知恵であるからである。本来、それらの多くは第一義的に家庭で指導すべき事柄ではあるが、核家族化やコミュニティの希薄化により、それを家庭に一任するのは困難な状況にある。そのため、食事の際の留意事項といった個別のマナーや公共の場におけるパブリックマナー等を発達段階に応じて指導を重ねていく。

⑪ **縦割り班活動での活動を重視し、年長者が年少者を導く活動をより充実させる。**

江戸時代、薩摩藩で行なわれていた郷中教育をイメージし、高学年児童に年長者としての責任を自覚させる中で、年少者への思いやりや自律心を育成する。同時に年少者には年長者への憧れの念を抱かせる。

#### 4. 中期経営計画における評価指標

##### (1) 子どもに夢と気概を育む教育実践

###### ア 取組方針

- ・学校図書館司書と学級担任が連携し、全学級で週1回以上の図書室の利用を図る。
- ・「教えて褒める」という基本原則に基づいて児童を指導することで、学習への意欲を喚起させる。

###### イ 成果指標

- ・読書が好きと回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートで「将来の夢、就きたい職業がある」と回答する児童の割合を90%以上にする。

##### (2) 自尊感情を高める教育実践

###### ア 取組方針

- ・各種コンクールに各学級で在籍児童数の80%以上を応募させる。

###### イ 成果指標

- ・「自分には(※自慢できるような)良いところがある」と回答する児童を90%以上にする。

##### (3) 集中力と持続力を醸成する教育実践

###### ア 取組方針

- ・卒業までに児童全員が水泳25m完泳、逆上がり、開脚跳び、縄跳び二重跳び連続5回ができるように、各々細かなステップと学年ごとの達成目標を設定し、その着実な実現を図る。
- ・各学級で「1学級1取組」における具体的な数値目標の設定と、月1回の継続的なモニタリングを行ない、一人一人の児童の着実な体力向上を図る。
- ・放課後5分程度を使って、その日の児童に関する事実を記録簿に記入する。
- ・管理職による1日1回以上の施設の目視点検、及び全教職員による学期1回以上の施設点検を実施する。
- ・「いじめ発見のチェックシート」（練馬区）と「大泉西小学校いじめ発見・対応マニュアル」（別紙）による児童の定期的観察を着実に実施する。
- ・各ブロックでの相互授業観察と週1回以上の打ち合わせ会等を実施する。

###### イ 成果指標

- ・90%の児童が卒業までに水泳25m完泳、逆上がり、開脚跳び、縄跳び二重跳び連続5回ができるようにするための学年目標を達成する。
- ・各学級の「1学級1取組」の重点項目の伸び率を「練馬区の伸び率×1.2」以上向上させる。
- ・「困ったことがあったら担任に相談できる」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・「困ったことがあったら副担任に相談できる」と答える児童の割合を80%以上にする。
- ・年度末の保護者アンケートで「安全への十分な配慮」への肯定的評価を90%以上にする。
- ・社会通念上、いじめ及び類似事案と認識できる案件の発生数を年間1件以内にし、仮に発生したとしても解決時の保護者満足度を100%とする。
- ・サービス事故の発生件数を0件とする。

#### (4) 基礎学力を保障する教育実践

##### ア 取組方針

- ・朝の時間帯に「大西タイム」を設定し、ドリル的な学習に取り組ませる。この時間は副担任も可能な限り担当学年の教室で指導に従事する。
- ・習熟度に応じた弾力的な大泉西小版・算数指導計画を作成し、一人一人の数的能力の向上を図る。
- ・全教員が毎月1回擬授業研修を受講し、「授業の名人」からユニバーサルデザインに基づいた指導スキルを身に付ける。
- ・全教員が特別な支援が必要な児童への有効な個別対応方法や指導方法についての研修会を受講する。
- ・全教員がタブレット端末を活用した授業を一週間に3回以上は行うと共に、児童が「新たな文房具」として日常的に活用できるようにする。

##### イ 成果指標

- ・全国学力調査（東京書籍版）「算数」の平均正答率を毎年、前年比5%向上させる。
- ・算数ワークテストにおいて「知識・技能」の正答率80%以上を保障する。
- ・「年度当初よりも何となく算数が楽しくなってきた」と回答する児童を年度末までに90%以上にする。

#### (5) 他者意識を育む教育実践

##### ア 取組方針

- ・あいさつ等のマナーやルールを遵守させるための取り組みを学級ごとに規定し、自己申告書に記載する。
- ・適切な縦割り班活動を構築し、児童相互の様々な交流機会を増やす。

##### イ 成果指標

- ・年度末の保護者アンケート「あいさつ」「ルール」に関する設問への肯定的回答を90%以上にする。
- ・同じ縦割り班の児童に対して「親しみがある」と回答する児童の割合を80%以上とする。

### 5. 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

(1) 子どもに夢と気概を育む教育実践	【取組指針】	学校図書館司書と学級担任が連携し、全学級で週1回以上の図書室の利用を図る。
	【成果指標】	「教えて褒める」という基本原則に基づいて児童を指導することで、学習への意欲を喚起させる。
(2) 自尊感情を高める教育実践	【取組指針】	各種コンクールに各学級で在籍児童数の80%以上を応募させる。
	【成果指標】	「自分には(※自慢できるような)良いところがある」と回答する児童を90%以上にする。
(3) 集中力と持続力を醸成する教育実践	【取組指針】	卒業までに児童全員が水泳25m完泳、逆上がり、開脚跳び、二重跳び連続5回ができるように、各々細かなステップと学年ごとの達成目標を設定する。
	【成果指標】	各学級で「1学級1取組」における具体的な数値目標の設定と、月1回の継続的なモニタリングを行ない、一人一人の児童の着実な体力向上を図る。

践		放課後 5 分程度を使って、その日の児童に関する事実を記録簿に記入する。
		管理職による 1 日 1 回以上の施設の見視点検、及び全教職員による学期 1 回以上の施設点検を実施する。
		「いじめ発見のチェックシート」（練馬区）と「大泉西小いじめ発見・対応マニュアル」（別紙）による児童の定期的観察を着実に実施する。
		各ブロックでの相互授業観察と週 1 回以上の打ち合わせ会等を実施する。
	【成果指標】	水泳 25m 完泳、逆上がり、開脚跳び、二重跳び連続 5 回ができるように、学年ごとの目標を達成する。
		各学級の「1 学級 1 取組」の重点項目の伸び率を「練馬区の伸び率×1.2」以上向上させる。
		「困ったことがあったら担任に相談できる」と答える児童の割合を 90%以上にする。
		「困ったことがあったら副担任に相談できる」と答える児童の割合を 80%以上にする。
	年度末の保護者アンケートで「安全への十分な配慮」への肯定的評価を 90%以上にする。	
	社会通念上、いじめ及び類似事案と認識できる案件の発生数を年間 5 件以内にし、仮に発生したとしても解決時の保護者満足度を 100%とする。	
	サービス事故の発生件数を 0 件とする。	
(4) 基礎学力を保障する教育実践	【取組指針】	年度末までに習熟度に応じた弾力的な大泉西小版・算数指導計画を歓声させる。
		ユニバーサルデザインに基づいた指導原理を学ぶため、月 1 回の模擬授業研修を受講する。
		全教職員が特別な支援が必要な児童に対する有効な個別対応方法や指導方法を習得する。
		タブレット端末を活用した授業を全教員が毎週 3 回以上は行う。その記録を校務支援システムの中のフォルダに格納させ、学校の共有財産とする。
	【成果指標】	標準学力調査（東京書籍版）「算数」の一人一人の正答率を次年度は今年度比で 5%向上させる。
	単元末の算数ワークテストにおいて「知識・技能」の正答率 80%以上を保障する。	
	「4 月よりも何となく算数が楽しくなってきた」と回答する児童を年度末までに 90%以上にする。	
(5) 他者意識を育む教育実践	【取組指針】	あいさつ等のマナーやルールを遵守させるための取り組みを学級ごとに規定し、自己申告書に記載する。
		縦割り班の活動を月 1 回以上実施する。コロナ禍で困難な場合は手紙交換などの機会を意図的に設定する。
	【成果指標】	保護者アンケート「あいさつ」「ルール」に関する設問への肯定的回答を 90%以上にする。
	同じ縦割り班の児童に対して「親しみがある」と回答する児童の割合を 80%以上にする。	

